



# 12/13実施 第4回 小川晶 保育ゼミ

R6.1.19 保育センター 発行

これまでに、「生活・あそび・環境の中での子どもの尊重」について学んできました。第4回は、「その他においての子どもの尊重」というテーマで、様々な尊重について学び、その中で印象に残ったお話についてご紹介します。

## 違い・個性はみんなもっている

生まれた時から1人ひとり違う個性があり、子どもも大人も個性はあっていいものです。ただ、社会との関係の中では、その個性によって“生きにくさ”を感じる場合があります。



何で普通にできないの？

…と思いがちですが、“普通”は社会の平均で作られているものです。普通できないから“生きにくい”のです。

**社会の中で子どもが生きやすくなるよう、子どもを変えるのではなく、大人が意識を変えて、環境を整えていきましょう。**

(＝合理的配慮)

## こだわりがある子への関わり

こだわりは安定するためのものであり、悪いものではありませんが、こだわりの表出によっては、生活面に影響が出てしまうこともあります。習慣的になる前に別の方法を提案するなど支援を考えましょう。

(例)

大きなタオルをずっと持っている4歳児。「持っていたい」という子どもの思いを聞いて、小さい頃からそのままになっているが、子ども自身は生活しづらく、戸外でも持っているため衛生面も気になり、毎日の洗濯で保護者の負担も増えている。

こだわりの表出が見られた時には、まずはその理由を考え、必要に応じて環境を工夫してみましよう。

## 外国籍の子どもへの関わり

周囲の人々、ご家庭やその子自身が、言語や生活習慣等の違いで戸惑いを感じることもあります。まずは、そのご家庭の文化を尊重することが大事です。その上で、日本の文化にもふれられるようにすることで、違った文化があることをみんなが知っていけると良いです。

感触を求めているかな？ふわふわがいいのかな？

小さなタオルに変えてみたらどうかかな？



上記の例の様に、「今が安定するから」という考えで、そのままにすることが尊重ではありません。**尊重の仕方が1人ひとりの生きやすさに繋がっているか**という考え方もとると良いです。

## 保護者への関わり

子どもだけでなく、保護者も負担と感じないような支援方法や環境の工夫について考えていきましょう。

## 受講者の感想

その子にとって今後生きにくさに繋がるだろうと思うことを連絡帳や口頭で説明しても伝わりにくいことがあります。保育園で正しくアセスメントしていき、保護者に「こう関わったら〇〇な姿が見れたよ」と伝えていきたいです。

【みなみ保育園 吉田先生】

保護者が適切な専門家に頼っていいんだというのを獲得できるように援助することが必要という話を聞いて、改めて、保護者支援や送迎時の関わり、アタッチメント形成にしっかり向き合って丁寧に関わっていきたいと思いました。

【スピカ☆リトルスター保育園 佐藤先生】

保護者と子どもで言っていることが違う際、なぜだろうとアセスメントをしますが、保護者の言葉を信じるしかない時があります。しかし、保育者と保護者では気付いていることや見ていることが違うのだと理解した上で関わる必要があると学びました。